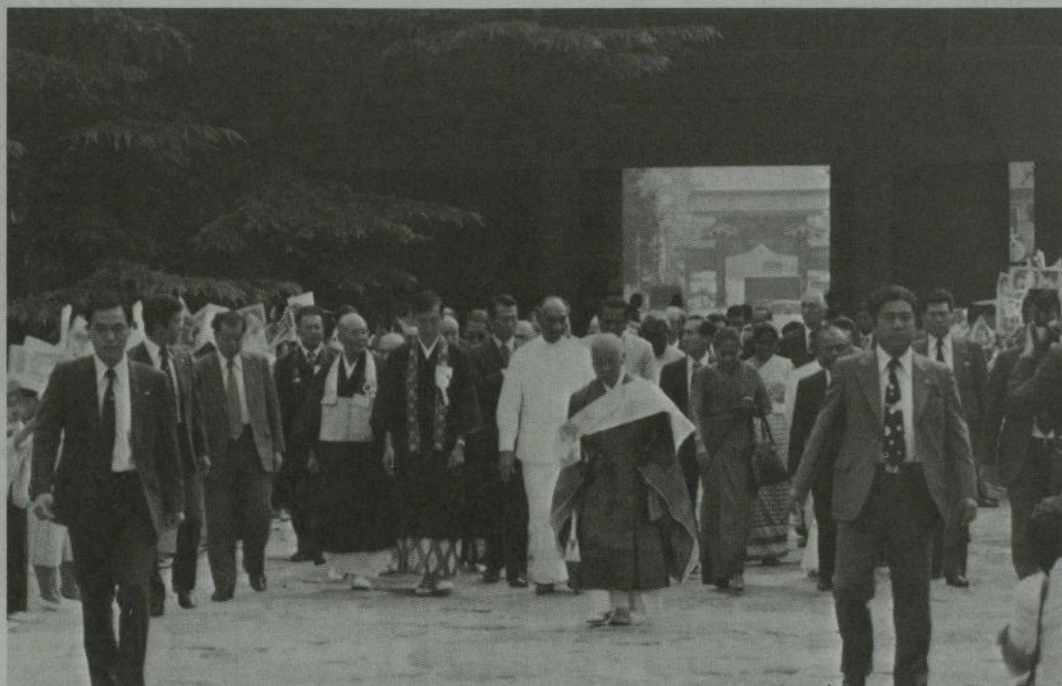


NO 252

全日

10 / 54



馬肥ゆる秋に――

天高く馬肥ゆる秋。都会では、田舎の澄み切った青空を思い浮かべつつ、秋の風情を味わっています。町や村では、子供から大人まで生命(いのち)を謳歌する運動会が花盛りのことと思います。

お蔭さまで、健康でと、つくづく感じさせてくれるのが、運動会です。

つい先月の新聞にまた中学生の自殺のニュースがありました。空手着をきたままマンションから飛びおり若い生命を断ちました。

最近多い子供の自殺、痛ましい限りです。生命の大切さを向としても幼児の時から教えてあげたい。幼児、小中学生への教化、それぞれ努力はしているものの、こんなニュースに接すると、なんとももどかしさをぬぐい切れない。

写真は芝の増上寺を訪れたスリランカ大統領
関係記事 一四、五面に

第26回全日本
仏教徒会議

茨城大会15日に開幕

ルンビニ復興なども討議

第二十六回全日本仏教徒会議茨城大会は、今月十五日午前九時半より、水戸市民会館を会場に「大法輪のもと、より大きくより強く」のスローガンのもとに開催される。茨城県仏教会役員ならびに大会実行委員会を中心に準備をすすめ、全仏剛と緊密な連絡をとりながら最終的に準備を整えている。なお、大会本部では地

元七百名、地方より三百名の参加者を予定している。開会式典、総会、記念講演などのあと午後からは、四つの部会にわかれて、それぞれ提出された議案について討議を行うが、婦人部会、青年部会ではより充実させるため、全日仏婦、全日仏青がそれぞれ協力して準備している。



水戸市中央1丁目4番1号
水戸市民会館
☎ (0292) 24-7521(代表)

水戸駅より徒歩10分
水戸駅南口より徒歩5分
市役所前バス停より徒歩2分

大会を開催するにあたり地元の茨城県仏・大越会長は「青少年教化等の諸問題を中心に、提出された議案を熱心に討議してほしい。現代社会の要請に応ずることが、われわれ仏教徒に課せられた使命である。一人でも多くの方が参加していただきたい」と決意を語っている。

特に開催地の水戸は、古来より文武両道の精神文化淵藪の地として知られ、また廃仏毀釈運動発祥の地でもあるだけに熱のこもった討議が期待される。

茨城大会開催要項

日時 十月十五日(月) 九時半～四時半
会場 水戸市民会館
部会 第一部会(実践部会)
第二部会(種信徒部会)
第三部会(婦人部会)
第四部会(青年部会)

宗派代表者懇談会

日程 八時受付開始、九時半開会式、十時二十分記念講演、十一時二十分総会、一時部会、三時総会、四時閉会式

費用 参加費三千円

茨城大会役配一敬称略

総 裁 大谷光真
副 総 裁 川田聖寛、山田無文、出口常順、中村元

大会 会 長 大越孝仁
大会副会長 牧田実栄、秋元義雄、中村純崇、小林栄雄、土肥浩

大会幹事長 神野真一
副幹事長 真深義實、柳了堅
実行委員長 小原泰寿

事務局 長 猪瀬宝山
第一部会部長 摩尼清之
第二部会部長 牧田実栄
第三部会部長 井上白宏
第四部会部長 永倉嘉文

助言者 望月良晃
助言者 若林隆光
助言者 岡部康善
助言者 佐伯真光

第三部会部長 山本 杉
第四部会部長 永倉嘉文
助言者 若林隆光
助言者 岡部康善

助言者 若林隆光
助言者 岡部康善
助言者 佐伯真光
助言者 郡司博道

助言者 郡司博道
助言者 河野晃永
助言者 西村輝成
助言者 船口暉子

助言者 河野晃永
助言者 西村輝成
助言者 船口暉子
助言者 川島宏之

助言者 川島宏之
助言者 白川良純
助言者 高辻円雄、花木義光、土持良栄、地元二名

宣言決議文起草委員長 松涛弘道
委員 小林昭延、佐伯真光、地元一名



前秦王苻堅が僧順道らを遣わし、仏像・経巻を贈って朝鮮半島仏教の肇年となつたのは高句麗小獸林王二(三七二)年のことであつた。以来、一千六

百年の永きにわたつて朝鮮半島の仏教は、実り多い確固たる歩みを続けてきた。従来の我国仏教徒が、範を淵源に求めるに急なあまり、韓民族の仏教に目を向けなかつたことは正に不幸の一語に尽きよう。伝来の経路や肇年の早晚から発展史的に各国仏教を価値づける事が出来ないのは当然として、韓民族の仏教の歴史と現状は決して、昔間いわれるような中国の垂流ではなく、みごとに地域的民族の特徴を表現するいわば仏者の民族的活作略の如状以外の何ものでもない。中国をしてすら隣家の丘とは、最早、称せられないであらう。

現代韓国仏教の宗派を我々日本人の宗派概念から整理することは極めて困難であるが、しいていへば禅宗と教宗の総合されたもの、特に臨済禅と華嚴教学が柱であるといつてもよいであらう。

う。これは歴史的展開の中で成立した韓国仏教の民族的選別による帰結であつた。三国から新羅時代にかけて教学を主とする華嚴・律・法相・三論等の諸学派が成立し、唐を凌ぐ学的精華を示したが、遅れて高麗初年迄に禅宗九山派が加わり五教九山の称が行なわれた。十一世紀初年、大覺禪師義天が天台教学を中国より移入すると、禅は天台を加えて五教両宗と呼ばれるが、李朝では強大な王権による宗派の統廃が断行されて諸派の混淆は著しくなつた。

韓国仏教の現状

— 宗教的特徴を中心として —

里道徳雄

が輩出し、あるいは雪坡常彦(尚彦)・蓮潭有一・仁岳義沾らが華嚴教学を確立し、白坡巨瓊らの禅学考究と相俟つて実践に根ざした総合的仏教教学を成立させて行つた。いわば単一的でありつつ混合的である諸宗台融的立場が李朝末迄に確立したといえよう。

現代韓国仏教の宗派は十九派を数えるが、それらは李氏朝鮮の政治的制肘を脱し、日本統治時代を経て、主体的に汗依經典を撰んで伝統仏教を年か

太宗は諸宗を曹溪宗、天台宗、捨南宗、華嚴宗、慈恩宗、中神宗、始興宗の七宗とし、世宗は一四三三年、七宗の前三者を合して禅宗、後四者を合して教宗とし禅教二宗とした。更に豊臣秀吉の文禄・慶長の役で多くの学僧が殺され、諸寺が荒廃するに従い、芙蓉靈觀の法嗣で、僧軍の將として活躍した西山大師休静が禅教都総持の号を与えられるに及び、禅教が宗制上から統一されたとみてよい。教学的には西山下三世に至ると、禅的立場から諸経が研学講経され、白谷苑能、月堵道安等

つつ成立したのである。主流は大韓仏教曹溪宗と大韓仏教太古宗の二宗で、寺刹数にして全体の八十%を占める。他を特徴にしたがって列記すると、新羅元曉・円光両法師等を宗祖とする大韓仏教元曉宗(以下大韓仏教を略)・華嚴宗・總和会、義天法師を宗祖と仰ぐ天台宗・一乗宗・仏入宗・法華宗など。密教系では眞覺宗・眞言宗や新興の天華仏教等。また三国新羅以来の弥勒信仰も表層に出て童華宗・弥勒宗や法相宗などの宗派を生み、浄土系では浄土宗が西大法師を宗祖として成立

している。中には普門宗のように観音経を主として護国仏教を唱える民衆教団もあるが、新興の総合仏教々団をみざす円仏教のような有力教団も成立し多様な展開をみる。しかしこの多様性が歴史的単一性に根ざしている事は改めていうを俟たない。伝統的教学大系を背景にもちつつ、更に強く新羅以来の護国仏教の立場を共通して有す。したがつて超宗派団体として全国仏教信徒会などが成立して積極的の活動をしていることは注目してよい。

韓国仏教のもう一つの特徴は古くから巫祝信仰、道教信仰と関わりつつ展開した歴史を有するために殆んど寺院が七星殿や山神閣等の堂宇を持ちつつ山間僻境に多く建立されていることであらう。その折禪仏教的超俗的立場が、住僧の清僧たるを李朝まで保たしめた。しかし日本統治時代の影響から妻帯僧が増え、一九五五年の李承晩発言を契機に曹溪、太古の分裂にまで深刻化し、寺僧の有様が問われるに至っている。また終戦直後の寺領山林強制買上げや檀家制の不成立による寺院経済の問題、更に寺院の観光化がみられ新婚旅行の色あざやかなチヨゴリが古刹の境内を彩っていることなどがあるが、東国大学校、円光大学校等の大学研究機関が優秀な人材を輩出させ、寺院立の専門教団と相俟つて新しい伝統の確立に成果をあげており、宗門、学界ともに国際間の交流に著しい。

昭和54年10月1日



増上寺で藤井法主に挨拶される大統領 (共同提供)

スリランカ大統領歓迎会

芝の増上寺へもご参拝

スリランカのジャヤワルダナ大統領が九月十日、日本政府の招待で国賓として夫人とともに来日。滞在中は皇居で天皇陛下と御会見、大平首相と会談など忙しい日程をさいて、十三日午前九時、芝・増上寺参拝と全仏主催の歓迎会に出席。

同日大統領は、一九五一年九月のサンフランシスコの対日講和会議にセイロン代表(現スリランカ)として演説、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む」という仏陀の言葉(法句経)の一節を引用して、対日賠償請求権を放棄し、日本国民に大きな感銘を与えたと語くからの親日家であり、熱心な仏教徒でもある。

昨年十月の第十二回世界仏教徒会議日本大会に、全仏では同大統領の御来場を切望したが、政務多端のため来日できなかった。しかし、今回の来日に際し、日本の仏教徒とも懇談の機会をもちたいと

のことから全仏主催の歓迎会にご出席いただけることとなった。

十三日午前九時、浄土宗大本山である芝・増上寺三門前に御到着された大統領一行は、全日本仏教会の大谷会長、川田副会長、町田理事長、蛸淵事務総長、金田増上寺執事長等の出迎えをうけ、大殿まで明徳幼稚園(増上寺)の園児、父兄や、孝道山仏婦、信松院仏婦など四百名が、スリランカ、日本両国旗の小旗を振ってお出迎えの中を、金田執事長の先導で合掌しながらゆつくり歩かれた。

大殿に入堂された大統領は夫人とともに靴を脱がれて素足で御本尊に一样し焼香、増上寺の藤井法主に挨拶されたあと歓迎会場の東京プリンスホテルにむかわれた。

ホテルに御到着の一行を歓迎委員等が出迎え、全仏の安藤事務次長の先導で高砂の間へ。百名をこす出席者の盛んな拍手の中を大統領夫妻はメーンテーブルに着かれた。

全仏・鎌田国際部長の司会により、町田理事長の開会の辞のあと、大統領夫妻や随員、駐日大使、外務省接伴員など一

行が紹介された。つづいて柳歓迎委員長の前頭で乾盃、幼児より大統領夫妻に花束贈呈があり、大統領もニコリ。しばし茶菓子による懇談がなされたあと、大谷会長が「仏教を通して両国の友情が愈々深まり、手に手を取り合い人類幸福の実現に努力をしたい」と英語で歓迎の辞をのべたのにつづいて、大統領より挨拶があった。(別掲)

大谷会長より記念品として大統領には黄金多宝珠、夫人には陶器花瓶を贈った大統領より象牙の仏像が贈られたあと蛸淵事務総長の閉会の辞をもって終了し、一行は出席者の拍手に送られ退室、厳しい警護のなか迎賓館に帰られた。

一時間半という短かい時間であったが大統領が東京の寺院を参拝することは珍らしく、また公式日程をさいていたなき有意義な歓迎会であった。なお、歓迎実行委員会、孝道教団、東京フティストクラブなどにお手伝い、ご協力をいただきましたことを付記します。

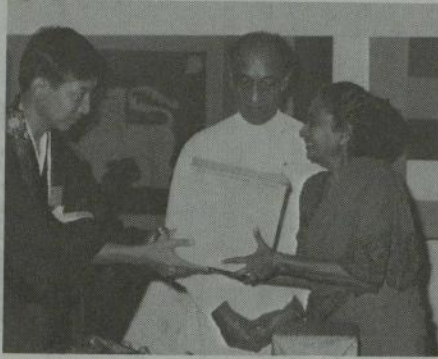
出席者(順不同、敬称略)

大谷元真、赤沼義俊、生駒恵幸、石井堯光、石井真峯、石井豊子、石井隆教、石山善邦、野上幸、糸久宝詮、稲岡寛順、岩間剛、巖谷勝雄、岩脇宏信、植田昭夫、植松威、江連俊則、遠藤光雄、岡田巳成、岡野正貫、岡野郁子、長田順海、織内七郎、貝山宣泰、金子日威、金田明雄、川田聖見、黒田武志、小泉宗和、小林林之助、小峰令丸、斉藤价洲、佐伯真光、桜井大乗、佐藤行通、椎名潤、四宮正音、芝原響音、杉谷義周、杉谷義純、潮川晴

朗、竹村勝子、高島孝範、高田隆成、高橋隆夫、立部端祐、田中一道、田中祥史、土持良栄、土佐舜成、永井孝道、中野頭文、中山理々、西口公教、西村輝成、西村敏子、丹羽康芳、沼田恵範、野田卯一、野村宗春、長谷川明徳、花山勝友、林達声、林亮海、林昌彦、平沼とみ、広瀬寿美、藤井実広、藤井日達、藤沢実晟、船口暉子、前田恵学、町田宗夫、松涛弘道、松谷被鏡、武藤真梨子、持田眞眞、柳了

大統領あいさつ

ご出席の皆様、本日は有名なる増上寺に詣で、また唯今は日本仏教界の皆様にお会いできたことは誠に光栄に存じます。スリランカと日本は共に仏教国でありながら、その教義に違いがあります。か



大谷会長から記念品を受ける
大統領夫人と大統領(中央)

堅、山口貴美子、山田潮亮、山本清厚、矢部一雄、吉田顕静、吉田澄子、渡辺直、渡辺直行、長谷川善信、粕賀弘道、神原玄祐、塩入亮達、潮川隆哉、秋吉正隆、梅山了、村田喜昭、佐藤良純、永倉嘉文、山本秀順、風岡田静、渡辺一之、浜田嘉伸、内田大寛、村松賢英、成田孝文、樹谷淳宣、山田一真、岩佐哲雄、川島宏之、安田圭司

つて私は日本の高僧に両者の違いよりも共通の場所を強調しようではないかと教えられました。師の示すところに従えば両国は真の道を歩むことでしょう。ご歓迎を感謝します。

大の親日家で有名

「……われわれは、賠償を請求するつもりはありません。なぜなら、われわれは、アジアの無数の人々の生命を高貴ならしめた、あの偉大な仏陀の言葉、すなわち、憎悪は憎悪によって消えさるものでなく、ただ愛によってのみ消え去る」という言葉を信じるからです。」——第二次大戦後のサンフランシスコ講和会議（一九五一年九月）にセイロン代表（現スリランカ）として出席、仏陀の言葉を引用して、対日賠償請求の放棄を呼びかけたことは有名

J・R・ジャヤワルダナ大統領の横顔

である。敬けんな仏教徒で、絶対平和論者。また大の親日家である。一九四七年、下院議員当選以来、蔵相、農相、国防相などを歴任し、七七年に首相、七八年に新憲法のもとで初代大統領に就任。国名を「スリランカ民主社会主義共和国」と改め、内政、外交面ともに優れた政治手腕を発揮している。

コロンボ計画の提唱者であり、著書には「仏陀の教え」「仏教評論集」「仏教とマルキシズム」などがある。七十三歳。エリアオ夫人との間に二男があらう。

世界の宗教者が平和への決意

第三回世界宗教者平和会議開かる

世界四十八カ国三百五十人が参加して第三回世界宗教者平和会議(WCRP)が、八月二十九日より十日間、アメリカのニュージャージー州プリンストンで開催され、最終日に平和と世界共同体を志向する「プリンストン宣言」を採択して会議を終えた。

ト教、イスラム教、ヒンズー教、ユダヤ教など世界の主な宗教代表が参集、日本からも町田宗天(全仏理事長)、山本スギ(全日仏婦理事長)の両氏をはじめ多数が参加した。

今回は「世界共同体を志向する宗教」をテーマに開かれ、世界共同体の理念や目標を明確にするだけでなく、目標達成のための具体的な過程と方法を明らかにするため、より実践的な会議となった。部会は二つに分れ「現実問題部会」では一、宗教と国際的経済正義 二、宗教と国際的安全保障 三、宗教と人間の尊厳・責任・人権などのテーマで討議され、「宗教問題部会」では一、宗教・教育・平和への献身 二、霊性の回復と強化 三、紛争状況に対する諸宗教間の対話と行動について話し合われた。

これらの討議は、時には論争されるなど熱気を帯びたもので、南北問題、核兵器や非暴力、人種差別、エネルギーなど現実問題が中心となったが、宗教部会における「霊性をもとに各宗教の深いところ」に共通の基盤を求め、現実問題を足元から見直すことから、宗教協力は可能であると確認されたことは最も評価される。よい(読売新聞・増永俊一記者)というように、今会議は意義深いものであったといえよう。

一般消費税導入と宗教法人

|| 特に問題の整理を中心として ||

全仏組織専門委員長 神野真一

一般消費税の導入か、所得税・法人税の増税か、国民は二者択一を、と大平首相としては珍らしく具体的な発言をしたのは七月初旬であったが、大蔵省内部では、一般消費税導入のための作業は概ね整ったと仄聞している。

その大綱については全仏(54・4)誌上に、文化庁渡部宗務課長補佐によって紹介されたところであるが、さらに理解を深めるため、収益事業にかかる法人税と比較しながら、もう一度考察してみることにした。

収益事業範囲の拡大

法人税では、収益事業の範囲を物品販売業・不動産賃貸業・出版業・売買取引業・駐車場業など三十二の業種と施行令で定めているが、それぞれの業種について、数多くの除外規定を特掲している。しかも、一般消費税法施行令の草案では、この除外規定が皆無に等しい。

例えば、不動産賃貸業は法人税では、住宅用地の低廉貸付や墳墓地の貸付は収益事業とされていないが、一般消費税では、これらもすべて収益事業に含まれることになっているのである。

課税標準の増大

つぎに、税額計算の基礎になる金額であるが、法人税では収入の額から必要経費を差引いた、いわゆる所得金額について、30%の寄付金控除を認容し、70%に課税されるのはご承知の通りである。

しかるに一般消費税では、売上高から仕入高を差引いた、いわゆる荒利益に5%の課税をされる。しかも仕入高には、人件費・公租公課・寄付金・支払利子・保険料等は含まないことになっているから、土地貸付を例にとってみると、仕入高は皆無に等しく、地代収入の全額に課税されると言っても過言ではない。

小規模零細事業者

の除外

年間売上高二千万円以下の事業者は納税義務を免除することになっているが、さほど大規模でない不動産賃貸業を例にとってみても、住宅用地の低廉貸付までも該当するのであるから、書換が数あり、後述する墓地使用料の収入が多くなり、あつたりしたときは、この額を超える年

も稀ではないと思われる。

さらに、地代家賃・更新料・権利金・永代使用料等の合計額が二千万円を超えない年でも、超えないことを証するため計算は毎年行う義務が生じるから、教化者としての本来の活動以外に、過大な時間の浪費を強いられることになるのは、火を見るより明らかである。

墳墓地貸付業について

昭和46年4月、法人税法施行令の改正に際し、不動産賃貸業の除外規定に「宗教法人または民法法人が行う墳墓地貸付業」が特掲された。東仏事務局長郡司博道師は全仏(46・7)誌上に「墳墓地貸付業という独断の規定に対する宗教者の提言」と題して反駁され、全仏では税制特別委員会を組織して、日宗連理理事長をもつて、墳墓地貸付業の範囲について文部大臣に質問書を提出したのである。これに対し、国税庁からの回答の要旨は次の通りであった。(全仏47・11月号)

永代使用料等使用料を徴して行う墳墓地の貸付の事業は、宗教法人本来の活動の一環であるかどうかを問わず、一般には不動産賃貸業という名称の事業に該当しますが、法人税法上は施行令の規定により不動産賃貸業には該当しないことになりました。

かつて強行埋葬による墓地係争が頻発したとき、顧問弁護士池谷四郎氏は「寺院墓地は、その寺院の檀家に供用したものである」ことを法廷で再三強調された。最近では文化庁内部では、専ら信者の用に

載する墓地を「第一種墓地」、教派宗派を問わない墓地を「第二種墓地」と呼ぶことが慣行となつていようである。

古くは△境内墓地▽といわれたいわゆる第一種墓地は、随意に墓加金を喜捨して入壇した信者に、儀式執行の浄域として、寺院は境内の一隅を、その者の墳墓造営の用に供するもの、であることを確認しなければならぬ。

近頃は国税庁回答にあるような、永代使用料等使用料を徴して行う墳墓地貸付の事業を行う宗教法人が存在することを否定するものではないが、このような積極的に墓地を造成して、教派宗派を問わず使用させるいわゆる第二種墓地と、旧来の供用形態の墓地とは、税法上も画然と区別されるべきものと考えられる。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

衆院選 全仏の推薦候補

衆議院議員選挙（十月七日投票日）にあたり、全仏の加盟宗派、県仏、団体より推薦のあった候補者に対し、全仏推薦状を交付した。候補者は、推薦団体と密接な関係を有する外護者で、仏教徒として大いに活躍が期待される。各位の誠意ある支援が望まれます。――①推薦団体

②略歴現職――

――東京1区――
大つか ゆうじ 50歳 自民前①東京都仏 ②慶応大卒、都議、衆議院建設常任委員、党住宅対策副委員長
――東京3区――
越智 通雄 50歳 自民前
①東京都仏 ②東大卒、大蔵省、ニューヨーク副領事、党都政調会長
――東京4区――
かすや 茂 53歳 自民前

全仏ロビー

「ご任職のことを伺と呼んだらいいんでしようか」と聞かれることがある。方丈さん、和尚さん、お上人、坊さん、老僧の他に、お寺さん、先生などとも呼ばれる。これが宗門や本山の尊称となります。

木村 俊夫 70歳 自民前
①三重県仏 ②東大卒、通信省、内閣官房長官、経済企画庁長官、外務大臣
――三重2区――
藤波 孝生 46歳 自民前
①三重県仏 ②早大卒、三重県議、党総務、文部政務次官、党政調副会長
――東京8区――
山田 久就 72歳 自民前
①東京都仏 ②駐ソ大使、環境庁長官、党政審委員
はとやま 邦夫 31歳 自民前
①東京都仏 ②参議院議員秘書、党国対委員

関東甲信越静岡ブロック会議開く

九月四日午後三時半より、水戸市「三の丸ホテル」において、関東甲信越静岡ブロック会議が茨城県仏教会の担当で開催

むすかしく苦勞させられる。

全仏の大谷会長（本願寺派）は宗門では門主。しかし東本願寺は法主で東西でも違う。同じ真宗教団でも高田派

尊称あれこれ

や誠照寺派は法主、興正派や仏光寺派は門主である。真言系では高野山、醍醐寺、国分寺などのように座主が多い。豊山の長谷

寺、智山の智積院は化主、仁和寺などは開跡である。天台は座主、浄土は門主であるが、曹洞の水立寺・総持寺は貫首、日蓮の身延山は法主とそれぞれであり、宗派としては管長でよいが本山に書状を出す時には失礼なこともよくある。同じ貫首でも、貫主もある。そのうえに、かんす、かんじゅなど呼び方も違うのです。

依又唱和、全仏・蟬淵事務総長と茨城県仏・小原茨城大会実行委員長の挨拶のあと、神奈川県仏・貝山会長を議長に選出して議事に入った。

一、各県仏事業報告
（東京都仏）東京仏教連合寺院名鑑を制作中。子供の問題にテーマをしばらく活動している。
（埼玉県仏）韓国ソウル市仏教会と姉妹提携を計り訪韓した。第二回の仏教徒大会を開催する。
（神奈川県仏）仏教徒会議などを開いた。

（千葉県仏）老人に対する交通安全アピールを行う。物故者追悼法要を行う。役員改選を計り事業を推進する。
（静岡県仏）恒例の県下戦災慰霊法要を行う。

（栃木県仏）仏教文化講演会を開催、好評であった。伝道ポスターを制作する予定。
（茨城県仏）茨城大会の準備に集中。大会の参加依頼や準備報告などについて協議された。

二、全日本仏教徒会議茨城大会
三、来年度全仏大会について
第二十七回大会の場所、あり方などについて協議し「ブロック大会に切りかえてはどうか」・「ブロックで受けもつ方法はどうか」などの案が出された。

四、関アロ次期地について
群馬県仏の担当ということで了承。出席者――順不敬略
（茨城県仏）大越孝仁、小原泰寿、猪

昭和54年10月1日

瀬宝山、その他県仏役員

(栃木県仏) 加藤康照

(神奈川県仏) 貝山宣泰、小崎竜雄

(埼玉県仏) 河野亮永、北之内真竜

(東京都仏) 郡司博道

(千葉県仏) 土持良栄、橋本照稔

(静岡県仏) 岩田利文

長野県仏教徒大会

第25回、小諸市民会館で

長野県仏教会では、第二十五回長野県仏教徒大会を、九月五日午前十時より、小諸市民会館において開催した。

一部の法要は三浦義重県仏会長(善光寺大勧進)の大導師で厳修されたあと、荒井道見実行委員長が挨拶(小諸市仏会長)について二部の式典では県仏会長や来賓祝辞が行なわれた。三部の記念講演は評論家の高瀬広居先生が「釈尊のおしえと人間教育」と題して講演。四部の清興では三浦浩一ショーを楽しむなど盛況であった。

大阪府仏の三十周年

記念大会、盛大に開く

大阪府仏教会(西口公教会長)では、九月二十七日午後二時より、大阪府仏教会三十周年記念大会を、新阪急ホテルにて開催した。

第十回全仏大会、万博、毎年開催の府仏教徒会議、黒い法要追放、災害時の寺院開放など非常に活発に活動してきた大阪府仏だけに、三十周年を記念するこ

の大会も有意義にまた盛況であった。大会は、記念法要のあと西口会長が挨拶、来賓の府知事等の祝辞があった。記念講演は全仏前理事長の田辺哲彦師による「二十一世紀の仏教」の講演が行なわれた。つづいて記念パーティが賑やかに開かれ全仏、市仏の代表等の祝辞などがあり、それぞれ会員は思い出話などに花を咲かせていた。

仏教聖典を韓国に贈呈

訪韓団員を募集中 仏教伝道協会 仏教伝道協会(沼田恵範会長)では、わかりやすい口語体でまとめた「仏教聖典」を発刊し、国内はもとより海外のホテル客室に寄贈運動をつづけていることは、すでに日本仏教徒の注目するところである。

昨夏より台湾、シンガポール、香港とつづいて寄贈され、仏教国との親善とともに、日本の精進文化が広く世界に伝えられるものです。先日の朝日新聞でも、都心のホテル「備品」でよくなるものの一つとして「仏教聖典」があげられていたが、新鮮さと内容の読みやすさなどが泊り客にうけ、つい失敬ということだそう。京王プラザホテルでも毎月七十冊ぐらのお客が持ち帰るといふ。

同協会では、このたび第五次の贈呈として韓国にも各ホテルに常備すべく、仏教聖典贈呈国際親善訪韓団を派遣する。この訪韓団とおして広く韓国仏教徒との友好をはたすべく、より多くの人々に参加を呼びかけている。参加希望の方は

同協会に詳細をおたずね下さい。(港区芝四の三の十四・電四五五五八五二) 日程は、十一月十二日出発。贈呈式、ソウル観光、慶州観光、法住寺・仏国寺など参拝をなす十六日帰国。

曹洞の声明「只管打坐」

十一月公演・国立劇場——好評の国立劇場「声明公演」は十四回目をむかえる。今回は「曹洞の声明」で只管打坐(しかんたご)。大本山総持寺が出演する。

十一月九日 六時半 「朝課晚課」
十二月十日 二時 「観音懺法」

弔 悼

朝比奈 宗源師(円覚寺派管長)
八月二十五日、脳卒中で遷化、八十八歳。二十七日に密葬が執行された。妙心寺や円覚寺で修行のあと、日大宗教科を卒業、淨智寺住職を経て、昭和十七年円覚寺貫主、世運仏会長として世界連邦運動を推進。

事務局録事(九月)

- 三日 局内会議
- ス大統額歓迎合同打ち合せ
- 実行委員会
- 四日 関東甲信越静アロックス会議
- 長野県仏教徒大会
- 日宗連・特許庁懇談会
- 十二日 ス大統額歓迎実行委員会
- 十三日 ス大統額増上寺参拝

局内会議
歓迎会
仏教映画の夕べ企画会議

おねがい
全仏文化部では機関紙「全仏」の創刊号、二号を採っております。昭和二十九年の十月か十一月の発行と思われまので(当時は全仏通信)ご協力をお願い申し上げます。

昭和55年版 「全仏手帳」

申込み受付中
全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。
内容 三掃依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他
サイズ 9×14cm
定価 五〇〇円(送料実費)
申込先 東京都港区芝公園四一七一 全仏総務局
「全仏手帳係」宛

昭和五十四年十月一日発行
十月号 第二五二号

発行人 鮎正治
編集人 安本利正

発行所 財団法人
全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七
電話〇三(四三七)九七五